



自らの経験が目標を生み

日々の学びが後押しとなって

第一志望の職種に内定

須永 光

東洋史学専攻4年

東京都立神代高等学校出身

内定先：株式会社読売新聞東京本社(記者職)

実体験から社会全体の課題に目を向け、志望職種を明確化

私がマスコミ業界を志望したきっかけは、父を病気で突然亡くしたことです。家族を失う深い悲しみを味わうとともに、学費や生活費などの経済的な困難に直面しました。そしてふと、経済的な事情から大学進学や学業を断念せざるをえない同世代の存在に意識が向いたのです。そこで私が記者となって、「学びたい」という意欲を持つ若者を救済する仕組みを探り、メディアで発信していきたいと考えました。

自分の考えを自分の言葉で発表する経験が“就活”に直結

文学部では少人数授業が多く、レジュメの作成からスライドを使った発表までを1人で行うゼミのように、自分の考えを発表する機会がたくさんありました。物事の本質を捉え、自分の考えを自分の言葉で論理的に伝える力が高まり、就職活動に活かされました。採用試験の面接では「今朝のニュースについてどう思うか」と問われることが何度もありましたが、自信を持ち、落ち着いて答えることができました。

POINT

いつも前向きに
可能性を信じること

就職はまだ先のことと考えていると、時間はあっという間に過ぎてしまいます。いつも挑戦する気持ちを忘れずに、進んで学ぼうという意欲をもち続けていれば、やりたいことがきっと見つかります。